

ギンイチモンジセセリ *Leptalina unicolor* (Bremer et Grey)

【選定理由】

愛知県では、尾張地方からは未知、三河でも局地的に生息地が知られるのみ。かつて生息していた豊田市（旧旭町）では1997年から3年間の調査では発見されず、矢作川下流堤防でも2007年には発見できなかった。北設楽郡や豊橋市近傍からも最近の報告は乏しく、全県的に減少ないし消滅の傾向にある。全国的にも減少が報じられている。

【形態】

前翅長14~18mmの小型のセセリチョウ。♂♀ともに翅表は黒褐色で、斑紋はない。後翅裏面中央には、第1化（春型）の基部から外縁に向かい明瞭な白帯が1本あり、本種の特徴となっているが、第2化や第3化（夏型）ではこれが後翅の地色に近く、また細く、目立たない。♀は、腹部が太く、前翅の先端がやや尖る点で♂と区別できる。斑紋の特異性から、本種と紛らわしいチョウはいない。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張地方では記録がない。近隣の岐阜県瑞浪市付近の土岐川堤防には生息が知られるが、その下流の庄内川の堤防からは知られない。

三河地方では、矢作川の下流の安城市、岡崎市などに生息していたが（高橋ほか、1992）、2007年の調査では発見できなかった。豊橋市（牛川町、下条町、下地町、佐藤町、西岩田町）、豊川市（旧音羽町）、北設楽郡豊根村、設楽町（旧津具村）、新城市（旧作手村）、豊田市（旧旭町、旧稲武町）、などに少数の記録がある。

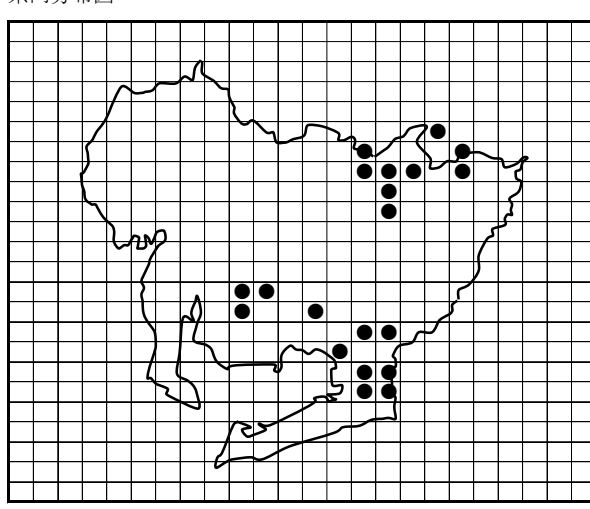
【国内の分布】

日本では、北海道、本州、四国、九州に分布するが、産地は局地的である。鹿児島県の鹿児島市、錦江町が南限となる。離島からは知られていない。

【世界の分布】

国外では、シベリア西部、アムール、中国西北部、朝鮮半島などに分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

ススキ、チガヤなどが自生する河川の堤防、鉄道線路周辺、山地草原などの明るい草原が発生地であるが、クズなどが繁茂すると生息しなくなる。海岸に近い草地にも発生地がある。

愛知県の平野部（矢作川下流地域など）では、5月上旬、7月上旬、8月下旬が最盛期となり、年3回発生する。豊田市太田町（旧旭町太田）（標高450m）で7月20日に採集した個体は第2化であったのに対し、同市大野瀬町（旧稲武町大野瀬）三国山（標高1,030m）で7月4日に採集した個体は第1化であった。前者では年2化、後者など高標高地では年1回発生にとどまるものと思われる。

成虫は、明るい草地を緩やかに飛び、すぐ草に止まる習性がある。曇天になると飛ばなくなる。ヒメジョオンなどの花でよく吸蜜する。ススキなどのイネ科植物に産卵し、孵化した幼虫はこの葉を食べ、幼虫で越冬、翌春蛹化、羽化する。第3化の世代に関する幼虫・蛹などについては調査が乏しい。

【現在の生息状況／減少の要因】

矢作川下流の堤防草地の生息地には、かつてシルビアシジミも生息していた。現在は運動場、駐車場が作られ、また放置されたことで他の場所と同様にクズ・ヤナギなどが繁茂し、本種の生息に適した明るい開放的な草地が著しく減少した。

【保全上の留意点】

明るい開放的な草地の保全が第一である。堤防の草地などは適当な管理が必要で、放置しておくと草木が繁茂し過ぎて本種の生息地は消滅する。堤防の改修、道路の舗装、農薬散布は必要最低限とする。

【特記事項】

国内外で地理的変異はない。山梨県産には、裏面が暗化する型が知られるが、愛知県ではこのような個体は知られていない。

【引用文献】

高橋 昭・高橋 賢・高橋 理, 1992. 愛知県沖積平野部矢作川河川敷の蝶. 佳香蝶, 44 (169): 1-3.

【関連文献】

高橋 昭, 1964. 名古屋地方のギンイチモンジセセリ. 佳香蝶, 16 (58): 47-52.

(2009年版を一部修正)